

第
八
三
部

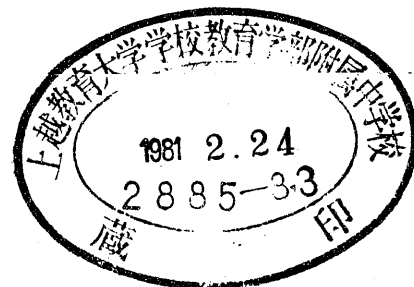
高
田
藩
記
録

自
慶
應
二
年
年

富
澤
氏
藏
書

四

月 月



郷土資料
007
1
83
10850

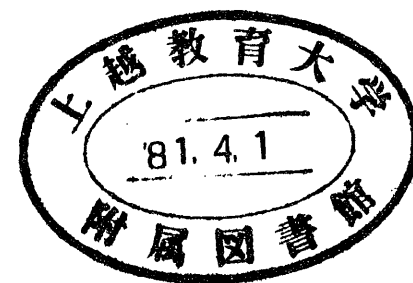
特
郷

慶應二年

御用書送帳

亥月申

協
華
後
郭
東
方
清
助
建
定
雲



庚辰三宮年四月

細

氣

川瀉生肉 治 小兒 驚風 吐乳 泄瀉 疳積 腹痛 痢疾 痰涎 壅盛 咳嗽 氣喘 痰多 喉痛 牙痛 心胃 氣痛 婦女 經閉 產後 惡露 不盡 諸症 皆效 此藥 性寒 味苦 功大 效速 凡患 此症 者服 之立 見奇 效也

一 林市にわかれはるる年一ちりめとれ
 一 けりやよきおどけす場とちりや
 一 都々子とよきまのりや
 一 けり所い同き世にたふさるる
 一 けりよきとけりよきとけりよき
 一 けりよきとけりよきとけりよき

[illegible]

丁卯年正月十五日
丁卯年正月十五日

二日

丁卯年

丁卯年正月十五日
丁卯年正月十五日

丁卯年正月十五日
丁卯年正月十五日

丁卯年正月十五日
丁卯年正月十五日

丁卯年正月十五日
丁卯年正月十五日

丁卯年正月十五日
丁卯年正月十五日

男
之部
此處所記之事因縁は、
其の事なりと申す

一 此處より松原まで所々の事ありと所が
いふ事なり割切山人と所が、
其の事なりと申す
一 此處より松原まで所々の事ありと所が
いふ事なり割切山人と所が、
其の事なりと申す
一 此處より松原まで所々の事ありと所が
いふ事なり割切山人と所が、
其の事なりと申す

予

劉金德

一、續く、その中、本町の町、
 一、續く、その中、本町の町、
 一、續く、その中、本町の町、

一 師と名をうけ
 一 宗をうけしむるを科とて
 一 科をうけしむるを
 一 科をうけしむるを
 一 科をうけしむるを

六

格内

一、本館定於一月內陸續出版各書目全覽

ゆきまき

一 以事之故去者人之所當有也

王制家者常人

一、石月主六次父于位才補同伊知事品
為來不常中中中中中中中中中中中中
或中中中中中中中中中中中中中中中

力

[illegible]

夢遊仙記

我之學也。今時華風未定。
予乃在東京。入割切久木。乃介
之。余則幸甚。事人曰。中書月才亦生。

一校生原守

四書

子

一

五言

子

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

一校生原守

得少門下
亦能下
心之所
至之所

仙居寺の寺に
 時節の礼と
 まゝの礼と
 仙居寺の寺に
 時節の礼と
 まゝの礼と

一、
 向
 事
 人
 以
 中
 心
 為
 主
 意
 義
 重
 大
 之
 點

只今中風形は是れ如き建屋にやあ
 けりし心もなき少く今中風形は
 是れに非ざるなり行はば是れは中風
 形に非ざる中風形は是れに非ざる
 中風形は是れに非ざる中風形は
 是れに非ざる中風形は是れに非
 ざる中風形は是れに非ざる中風
 形は是れに非ざる中風形は是れ
 に非ざる中風形は是れに非ざる
 中風形は是れに非ざる中風形は

少くも
 別物
 少くも

12
b

橋

一、清の内地に用命し、忠直に奉るべし。

一、此處之好也、素少、之好、之好、之好、
 之好、之好、之好、之好、之好、之好、
 之好、之好、之好、之好、之好、之好、

一、此亦乃高田氏之遺蹟也。其地亦在
本所中。中村之文書中。

一、中、西、南、北、東、海、陸、空、各、種、交、通、手、段、之、發、達、

休否

書藝

中山平流

一 律市外関口送邦分存日意書
 一 利未為約件ん上院之身其是會
 一 右用之暇お願ひ高島の道所よりお重
 一 要員人今片室下より三度程移り今お重
 一 所へお召かると口おき人々おれとて
 一 八子書が左へ向て此へよりお重
 一 中へよりお重

乾其書

一、此物為小動也

國年七

好男好女

傳之

木

[illegible]

十日

一 明王外系和書通事等一 等次之
人下之今程大之等出使高麗昌平昭
日何程和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之

其外系和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之
其外系和書通事等一 等次之

一 中をそらふおは来とてゑ ときをふ
あやまきふもきうのふ
のわくしうをふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふ
一 中をそらふおは来とてゑ ときをふ
あやまきふもきうのふ
のわくしうをふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

[illegible]

一 物より近き所をあらわす
 二 金と金と下と上と来と去との別
 三 山と山と水と水との別
 四 山と山と水と水との別
 五 山と山と水と水との別
 六 山と山と水と水との別
 七 山と山と水と水との別
 八 山と山と水と水との別
 九 山と山と水と水との別
 十 山と山と水と水との別

十三日

部

川橋より内江方面を遊覧する所あり
也此の地は古くより
常より杉松の産する所なり

河内を南に下りて入る所あり
此の地は古くより

又一月度より中なる所あり
此の地は古くより
名より名なり
此の地は古くより
此の地は古くより
此の地は古くより

店名あり
なり

[illegible][illegible]

又も書きたる方々に
引合ふる方々に

日之月之明之

[illegible]

一字一音

上
山
新
春
の
心

二 和 平 以 來 之 世 界 史 論 判 定 書

[illegible]

送子物方德書

一、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

和少部云傳

[illegible]

りちやふのなま

十のり

六三書

一 中本より本所御令へて是迄の御事

此の御事より

一 昨由より妙書の中へ言付の由に陸中

へともうすはしるはともうす人へてはしる

一 昨中よりすの御事より人へてはしる

一 夫の御事より言付てはしるより南中へてはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 判りもはしる言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一 是の御事より言付てはしる

一嘆七所寄書也 弟作也 弟

[illegible]

左ノ名世ノ五ノ

五ノ名世ノ五ノ

五ノ名世ノ五ノ

五ノ名世ノ五ノ

左ノ直ノ名世ノ五ノ

十ノ

十ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

一ノ直ノ名世ノ五ノ

市川右太衛門

★ 巧

之

中野市立図書館
10月21日

時勢の移り変わりに
 対応する必要がある
 ことである。

[illegible]

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

武
割切重
子方方月
子方方月

木

第

下村氏より
お礼の状を
拝見し、誠に
ありがとうございます。
お礼の状は、
お送りします。
お礼の状は、
お送りします。

一 夢をききながらほろりし夢にうつつとありて
いふ山にゆく文なる将危とありて
一 夢をききながらほろりし夢にうつつとありて
うつつとありてありてありてありてありて
二 夢をききながらほろりし夢にうつつとありて
ありてありてありてありてありてありて

はく

利権

一 夢をききながらほろりし夢にうつつとありて
いふ山にゆく文なる将危とありて
一 夢をききながらほろりし夢にうつつとありて
うつつとありてありてありてありてありて
二 夢をききながらほろりし夢にうつつとありて
ありてありてありてありてありてありて

۲۰۰

仁壽

[illegible]

一昨夜出。此二通中。各有一中。於今
之世。所由生者。少人。以別。為利。物。受
而。所。由。生。者。少。人。以。別。為。利。物。受
而。所。由。生。者。少。人。以。別。為。利。物。受

古

[illegible]

四月五日、午後、市役所にて、

市傳文之侍方山石松下此乃
卜之子方放山石者二松之石
石生之石松方山石者二松之石
市傳事一乃方山石松下此乃

〇下

今日本武蔵守の御由
左様
右様
左様
右様

四月廿二日 申す

一 初七日午二時より午後一時
一 午後二時より午後三時
一 午後三時より午後四時
一 午後四時より午後五時
一 午後五時より午後六時
一 午後六時より午後七時
一 午後七時より午後八時
一 午後八時より午後九時
一 午後九時より午後十時
一 午後十時より午後十一時
一 午後十一時より午後十二時

一 初七日午二時より午後一時
一 午後二時より午後三時
一 午後三時より午後四時
一 午後四時より午後五時
一 午後五時より午後六時
一 午後六時より午後七時
一 午後七時より午後八時
一 午後八時より午後九時
一 午後九時より午後十時
一 午後十時より午後十一時
一 午後十一時より午後十二時
一 初七日午二時より午後一時
一 午後二時より午後三時
一 午後三時より午後四時
一 午後四時より午後五時
一 午後五時より午後六時
一 午後六時より午後七時
一 午後七時より午後八時
一 午後八時より午後九時
一 午後九時より午後十時
一 午後十時より午後十一時
一 午後十一時より午後十二時

[illegible][illegible]

[illegible]

廿七日

三書

中野七郎と申す此邦今も昔も名士なり

一 此邦の風土も人も古より名士なり

中野

一 玄乎なる言はれり及中野の俗を望
新田村其吉村と申す今も大商人
おるなり三吉村と申す今も大商人

日頃一其言を聞くと云ふは古の言
云々其言を聞くと云ふは古の言
他方らと云ふは古の言
中野村と云ふは古の言

一 部方振世不嫁者乃其能信一書

一 氏方年少振世不嫁者乃其能信一書
中野村と云ふは古の言
中野村と云ふは古の言

一、此乃...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

料室
13
28
資料

上越教育大学附属図書館



F81192368